

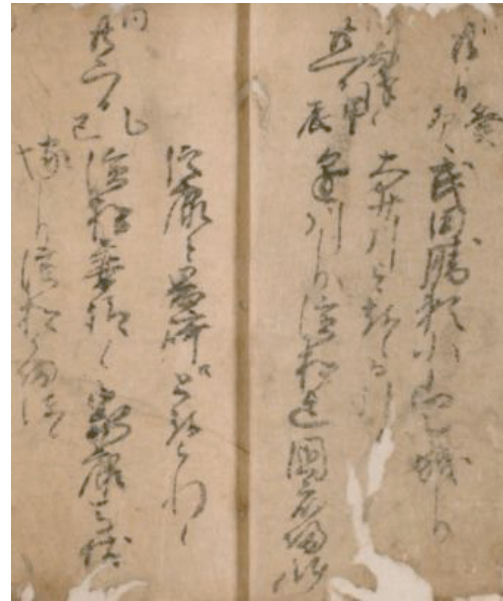
『家忠日記』の記事紹介と解説

①徳川氏対武田氏～高天神城の戦い～

廿二日 同 巳乙 濱松普請候、家康馬伏塚より濱松御帰陣候

廿一日 同 辰甲 懸川より濱松迄国衆帰陣候、信康は岡崎江と越られ候

同日 同 卯癸 武田勝頼、小山今城より大井川を越候而引候



①『家忠日記』巻一 天正五年（一五七七）十月条

解説

天正3年(1575)5月、有名な長篠の戦いで、織田信長・徳川家康連合軍は武田勝頼を打ち破ります。しかし、長篠の戦い以後も、徳川氏は武田氏との熾烈な戦いを繰り広げていました。

現存する『家忠日記』の記述は天正5年(1577)10月から始まっています。①は天正5年10月の記事です。同年閏7月頃に、徳川氏は「高天神を制するものは遠州を制する」といわれた武田氏の高天神城(静岡県掛川市)を攻略するため出兵します。一方、武田氏も高天神城救援のために遠江に出兵します。そして、勝頼は小山城(同吉田町)に在陣していましたが、10月20日に大井川を越えて引き返したことが記されています。

武田軍の退陣により、翌21日には家忠は懸川(掛川)から濱松(浜松市)へ引き、家康の嫡子信康は岡崎(愛知県岡崎市)まで引き返していることがわかります。そして22日には高天神城攻略のために、馬伏塚城(静岡県袋井市)に在陣していた家康も浜松に引き返しています。家忠は帰陣早々浜松城の普請を行っています。

浜松城はこの頃一大改修が行われており、この後も家忠が浜松城普請に従事していたことが『日記』からわかり、合戦に伴う一連の軍事的行動が如実に記されています。